

## 事業所における 自己評価結果（公表）

公表：令和 6 年 1 月 1 日

事業所名 コペルプラス 大元教室

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	3		利用定員に対して適切なスペースである。	
	②	職員の配置数は適切である	3			急な欠勤になった際に対応しづらいところもあるが、臨機応変に対応できるように今後も行っていく。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	3		カド丸くするなど、事故防止努めている。 今日取り組む教室の名前理解しやすいように大きめにしている。	
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	3		清掃活動をこまめに行い、利用者様が安心して通いやすいような環境に日々努めている。	
業務改善	⑤	業務改善を進めるための PDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	3		朝礼・カンファレンスを通して、今後の目標やより良い療育の為に指導員達がそれぞれ考えている。	
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	3		職員間で話し合い、今後の業務改善につなげる最中である。	職員間での業務改善に向けてズレの内容に 1 人ひとりの意見を尊重して話し合う。

	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	3		期限を守り、いただいた評価、及び業務改善につなげられるように意見をまとめて公開をしている。	
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3		適切に対処し、業務改善につなげられるように努めている。	
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	3		定期的に会社内での研修に参加するなど、技術力向上に努めている。	
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	3		適切に行えている。	
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	3		左記通り標準化されたアセスメントツールを利用し、適応行動を図っている。	
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	3		各個別支援計画の中に「家族支援」等入れることが出来ている。	

	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	3		左記の内容通り支援に沿った支援を指導員1人ひとりが意識をして取り組んでいる。	
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	3		固定化されたプログラムがあるが、それぞれの支援すべき内容も職員間で	

				話し合い、展開で来ている。	
⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	3		通われているお子様が同じ課題を利用しないように、前回行ったプログラム確認し、様々な課題を展開できるように工夫している。	
⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	3		利用時に今何が必要とされているのかを保護者と相談し、その子に合わせた活動内容を組み合わせることが出来ている。	
⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	3		職員間でのズレが無いように支援内容、役割などを明確化している。	
⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	3		フィードバック時を行い、次回のレッスンに繋がられるような	
⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	3		『成長療育システム』を利用して療育を記録している。またこれまでの内容を見ることが出来、改善に努めることが出来ている。	
⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	3		期限内に作成をし、利用時の成長に合わせた計画内容を作成することが出来ている。	

関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	3		利用時に関わる全ての職員が参画し、適切に意見を述べている。	
	㉑	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	3		利用時が通っている園に訪問を行い、施設での様子・園での様子を共有し、保護者の方と情報共有を行っている。	
	㉒	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	3		相談支援員や園の職員なども連携を取り、訪問などを行い、情報共有を積極的に行っている。	
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	3		情報などを収集し、連絡の体制を整えている。	普段行う事はできていないが、今後活用された場合に瞬時に対応できるように再度情報を整えているか確認を行う。
	㉔	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	3		保護者からのご依頼があったさいは園に連絡を取り、積極的に情報共有を行っている。	
	㉕	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている		3		小学校との連絡は取り合っていない。現在は主に保護者との就学先のことについて話を進めている状態。
	㉖	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3			他園からの研修など情報共有をいただき、積極的に参加に努めようとしている。
	㉗	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		3		交流などの機会は少ないが職員間で話し合い、積極的

					に活動し、周知活動に努められるように進めている。
--	--	--	--	--	--------------------------

	②⑨	(自立支援) 協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		3		積極的に参加することはできていない。
	③⑩	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている		3	療育時間や施設で周知されている連絡アプリを利用して今後の療育についてやお子様の成長について共有することが出来ている。共有の連絡アプリを利用することで、保護者の方もいつでも確認することが出来ている。	
	③⑪	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている		3		情報共有など各家庭で行う事は出来ているが、開催される機会は少ない。今後積極的に行えるようにしていきたい。
保護者への説明責任等	③⑫	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている		3	契約時に保護者様に納得していただいた上で利用されている。保護者様の疑問に対しても適切に回答を行えるように努めている。	
	③⑬	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている		3	保護者様に同意の上で利用を行っている。また他の要望があった際には速やかに追加し、新たな	

				支援計画の提示に努めている。	
34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	3		「保護者様の1番の応援団」でいられるようにともに悩みを解決しようとしている。	
35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		3		開催する機会は少ない。時間を設ける予定はあったが、保護者様同士の時間の日程調整も難しく開催できないこともあった。日程調整を事前に行い、また保護者様同士の情報共有の場を設けたい。
36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	3		相談があった場合は療育時間の来所時に迅速に行う事が出現時点では出来ている。	
37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	3		療育システムを利用して行事などの発信や療育の空き時間の情報を共有して療育回数を増やせるように努めている。	
38	個人情報の取扱いに十分注意している	3		書庫などを必要な時のみ開放し、個人情報流失の予防に努めている。	
39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	3		情報が必要な保護者様への誤送信が無いように職	

				員でダブルチェックを行っている。	
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3		積極的には行っていない。今後職員で話し合い、活動を行い周知活動に努められるようにしていきたい。
非常時等の対応	④⑪	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	3	年に2回規定にのっとり災害訓練や映像を利用した虐待防止などの研修を積極的に行っている。	
	④⑫	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	3	上記同様、定期的に避難道具・避難経路の確認を行っており、実際の災害に備えられている。	
	④⑬	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	3	療育システムやフェイスシートなどに情報を共有いただき、管理者だけではなく、指導員もいつでも確認できるようにしている。	
	④⑭	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3	食物を扱う事はこちらでは少ないが、療育システム、フェイスシートを利用してお子様の情報を把握している。	
	④⑮	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	3	ヒヤリハット・事故発生時のファイルを作成し、職員同士で情報を共有できるようにしている。いつでも見ることが出来るように、再	

				発防止に努めることが出来ている。	
④6	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	3		会社で規定された研修はもちろん、教室内でも情報を共有し合い、虐待防止に努めている。	
④7	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	3		契約時の保護者様へのご説明した上で了解を経ており、現在は身体拘束を行うような場面はないが、そういった場面もあることを理解して運営をしていく。	

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。